巻頭特集　ユネスコ無形文化遺産に登録

世界へ轟け！桑名石取祭

昨年12月にユネスコの無形文化遺産リストに登録された桑名を代表する夏の風物詩「桑名石取祭」。これまでの祭りの歴史を振り返りながら、ユネスコ登録に至るまでのさまざまな活動について詳しい話を聞きました。

鉦や太鼓が打ち鳴らされる日本一やかましい祭り

毎年、桑名市の桑名宗社を中心に行われる桑名石取祭。各町から約40台以上の祭車が引き出され、鉦や太鼓を一斉に打ち鳴らして練り回るため、「日本一やかましい祭り」といわれており、平成19年には「桑名石取祭の祭車行事」の名称で国指定重要無形民俗文化財にも指定されています。

祭りの起源とされているのは、今からおよそ400年前の江戸時代初期。城下町の総鎮守であった桑名宗社の例大祭が行われるにあたり、祭地を整備して浄めるため、桑名南部を流れる員弁川（通称は町屋川）から清浄な栗石を奉納する行事が始まりました。やがて鉦や太鼓などの楽器、提灯や幕などの装飾が加えられて祭礼化したものと考えられています。

毎年の祭りは、各町内の祭車の順番を決める6月の御籤占式に始まり、海の日（7月第3月曜）の前日に、員弁川の川原で栗石を拾う川原祓式を実施。また、桑名市民会館で石取祭の伝承育成を目的とした石取祭囃子優勝大会が開かれます。

8月第1土曜0時、桑名宗社の拝殿で神楽太鼓の音が鳴り響き、試楽の叩き出しがスタート。送り提灯が各町に回され、それぞれの祭車が次々と鉦や太鼓を打ち鳴らし始めて、にぎやかで勇壮な曳き廻しが夜明けまで続きます。続いて各町が俵に詰めた栗石を桑名宗社に奉納。再び夕方から24時にかけて、約40町内で祭車の曳き廻しが行われます。

8月第1日曜の2時から、いよいよ本楽の始まり。明け方まで叩き出しが行われ、夕方から6月の御籤占式で一番くじを引いた花車を先頭に、それぞれの祭車が桑名宗社の前に集合。順番に神社への渡祭が行われます。その後は田町交差点で4台ずつの祭車による曳き別れがあり、2日間の盛大な祭りは早朝の4時頃に幕を下ろします。

ユネスコ登録が決まった12月1日の夜には、祭りの関係者およそ300人が桑名宗社に集合。全員で万歳を繰り返しました

桑名宗社で祝詞をあげて、ユネスコ登録を神様に報告。各町の代表者など、関係者が集まりました

ユネスコ登録に向けた桑名石取祭保存会の活動

文化庁によって桑名石取祭を含む全国33の国指定重要無形民俗文化財が「山・鉾・屋台行事」としてグループ化され、ユネスコの無形文化遺産に提案されたのは平成26年3月（ユネスコが設けている審査件数の国際ルールに基づき、翌年3月に再提案）。祭りの保護団体である桑名石取祭保存会は、前年からユネスコ登録に向けたさまざまな活動をしてきました。

「最初に取り組んだのは、申請する際に必要となる祭りのDVDを製作することでした」と振り返るのは、桑名石取祭保存会の会長を務める伊藤守さん。その後も登録の機運を高めようと、平成27年から毎年10月下旬に「桑名まつり博」を開催。八間通りを歩行者天国にして祭車の体験コーナーなどを設け、多くの人に祭車と身近に接する機会を提供しています。さらに昨年は、桑名で開かれた伊勢志摩サミットの関連行事「ジュニアサミット」に参加。会場となった「なばなの里」に13台の祭車を運び込み、サミット参加国の子どもたちが鉦や太鼓の打ち鳴らしを体験しました。

「祭車を見た子どもたちが、歓声を上げて喜んでくれたのが印象的でした」と話すのは桑名石取祭保存会の副会長、伊藤巧さん。桑名石取祭の魅力を世界に発信できたとほほ笑みます。

祝福ムード一色に染まった桑名宗社でのお祝い会で、鏡開きを行いました

もっと祭りを盛り上げて地域の活性化につなげたい

ユネスコ登録が決定したのは、日本時間で12月1日の未明。桑名石取祭保存会のメンバーや市役所の職員、報道関係者などが待機していた祭りの資料館「石取会館」は歓喜の渦に包まれました。当日の19時より桑名宗社で祭神に報告し、お祝い会を実施。「桑名の宝が世界の宝に！」と書かれたポスターなどが各町に配られ、市役所や桑名駅、桑名宗社、八間通りなど、市内の主な場所に垂れ幕やのぼり旗がはためきました。

今後の目標は、ユネスコ登録を起爆剤にして祭りの注目度をさらに高め、地域全体の観光振興につなげていくこと。「すでに市や観光協会、青年会議所、商工会議所など地域の主だった団体と、今後の新たな組織づくりに向けた話し合いを始めています」と伊藤守さん。国内からの観光客だけでなく、外国人ツーリストの増加を見込んで、通訳やガイドブック、誘導看板など、「おもてなし」の計画が進められています。

「これからは初めて祭りに足を運ぶという人も増えてくるはず。祭りと観光の相乗効果を目指します」と桑名石取祭保存会の専務理事、伊藤文郎さん。桑名宗社の宮司である不破義人さんも「桑名の大切な伝統文化をもっと多くの方に知っていただきたい」と前を見据えます。

今回のユネスコ登録を機に、世界にその名が知られるようになった桑名石取祭。祭りのさらなる盛り上がりとともに、地域の活性化がより一層進んでいくことを願ってやみません。

（左から）桑名石取祭保存会の副会長・伊藤巧さん、会長・伊藤守さん、桑名宗社の宮司・不破義人さん、専務理事・伊藤文郎さん

【取材協力】桑名石取祭保存会／事務局:桑名市京町16 石取会館内／電話:0594-24-6085
文／藤原均　写真／中村圭作　写真提供／桑名市役所ブランド推進課　デザイン／HANZO（GOZEN4JI ART WORKS）